

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

# 文化通心

2003  
冬

12月1日発行(季刊)



茶の湯の文化講座第二回 茶席の中の道具の見方  
桜園の誓い 松竹梅・三匹の侍  
好評連載 美藻庵点描 / Oh! 茶Gai!  
十二月から二月までの茶華道・イベント情報を掲載

その二

## 観光香川の松・竹・梅トリオ

観光は文化であり、地域に根ざす文化を大切にしなければならない。  
住んでいる人が気持ちよく感じられる地域こそ、誰もが訪れてみたい地域であり、  
その結果として観光地が生まれるのである。

(左から松岡勝哉さん、梅原利之さん、竹内守善さん)

40

発行・財団法人中條文化振興財団  
〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号  
TEL.(087) 826-3355 FAX.(087) 826-2212



## 第二回 茶の湯の文化講座

## 茶席の中の道具の見方(その二)

講師 小田 榮一 先生

## 唐物茶入の見方

茶入の見方というのは、まずは茶入本体の窯分け、中国の物であるか日本の物であるか。それから時代ですが、唐物と一口にいっても、漢作唐物とただの唐物の二通りあっても、漢作というのは本当に古い唐物でだいたに宋時代。ただの唐物というのはもう少し時代が下って、元から明へかけての時代。漢作唐物というのは本当に中国で焼かれ物。ただの唐物は土、釉薬を初代藤四郎が持つて帰って日本で焼いたもの。これは松平不昧公の書いた『古今名物類聚』にそう書いてあって、言い伝えをそのまま書いたんですが、当時の人は現実の物を見て唐物と書いてある物はやっぱり日本の物とは思えなかった。けれども、漢作との違いは歴然としていて、漢作は非常に薄くて鋭い。ただの唐物は少し厚手ではやっとしていて。だかられっきとした年代の差があるというのは近年の判断で、今はそういうふうに分けております。

和物の場合は、茶入の分類は「瀬戸」とそれ以外の二つしかない。茶碗とか他の焼物では、瀬戸は特別扱いをしております。国焼と、楽焼と、京焼。というのが茶碗などの分類法です。茶入の場合は楽も京焼も出てきません。これは脇役で、あくまでも瀬戸。瀬戸の終わる頃には各地で茶入が焼かれるようになった。高取だとか、丹波だとか。そういうものが国焼であって、他にもあちこちで焼かれるようになった。それに対して都で焼かれた物が京焼。その中に楽焼もあって、というように分類をしております。

さて、茶入の窯分けについては、殊に瀬戸の場合は大変です。初代藤四郎の物を古瀬戸という。二代藤四郎の物が真中古。三代が金華山。四代が波風。で、代々親、子、孫というように昔は教えたんですが、製作年代が重なって、区別のしようが無いので、今日では、真中古、金華山、波風というのは一様の固まり、グループとしての分類の名称であるとされています。特に波風になるとほとんど桃山時代です。

年代考証ですが、初代藤四郎は道元禪師に付いて中国に渡り、焼物を習ってきた。それで日本に帰ってきて始めたのが古瀬戸であるという事で教えていたんですが、道元禪師は完全に鎌倉時代の人です。じゃあ古瀬戸の始まりは鎌倉かと言いますと、或いはそうかもしれないですけど現実の問題としては、鎌倉に造られた古瀬戸の茶入と言う物は一点も見つかっておりません。だいたいは、室町時代中期から始まっている。

結局それ以前は、まだ点前というのがなかった時代で、茶碗などに比べると茶入は必要なかった。点前が始まって来ると茶入もたくさん必要になってまいりますから、日本でも瀬戸で焼いてもらいうようになった。それがいわゆる古瀬戸であり、時代も室町であまり桃山まで下らない。なぜかと言うと、桃山時代の名物の記録の中に古瀬戸が既に名物として載っている。ところが金華山や波風には一点も桃山時代に名物となった物は無いんです。従ってそれらは殆ど桃山、ないしはその後という解釈に、最近、学者や美術商の間ではなっています。

## 中興名物は三種類

遠州が中興名物と言う物を選んだ。大名物と中興名物の違いは何処にあるかと言いますと、辞書を引きますと、大名物とは東山時代の物をいう也。名物とは利休時代の物を言う也。中興名物とは遠州時代の物を言う也と書いてある。これは低学年向きの答えであります。正しくは、大名物とは遠州時代の中興名物以前の物には全て大を付けると言う事です。で利休時代の有名な物も入って参ります。

中興名物に付いては二つの固まりがあつて本来は遠州が、それまで無名であつた茶入の中から選んだり、その時代に出来た物に一生懸命仕覆を付け、象牙の蓋を付けて、箱をこしらえて、銘を付けて、それから世に出した。ですから全部遠州の仕立ての縁のある物が中興名物となります。

ところが実際には、他にも中興名物というのがあつて、これは当時関西で評判であつた坂本周斎という、これは原叟如心の後見をした薬問屋で、その人が自分の手控えに有名な道具の帳面を作つて持っていた。それに載っているというのが当時は非常に評判になって、最後にはそれが中興名物の帳面という事で誤解され、まだ当時は遠州の中興名物の意味がハッキリしてなかった事もあつて、とうとう大阪、京都方面ではこれが中興名物の台帳として通つてしまつた。

もちろん江戸の方では遠州の仕立てた中興名物があつて、一緒にしたものから一挙に数が増えまして。またそれに不昧公の物が加わつた。不昧公は、自分の道具を分類する時に大名物の次に中興名物の部を作つて、自分で遠州の仕立てた中興名物と書いた上で、自分のところの掛け物とか茶碗を追加したんですね。ここで茶入でない物の中興名物が加わつて、結局、三種類の中興名物があるんです。

茶入の楽しみは、次第と伝来と銘で、こ

の三つを忘れたら面白みはありません。もちろん形や釉の景色がまず第一番で、次にどういう仕立てがしてあるか。それから三番目に誰が持つておつて、どんな銘が付いているのか。茶入の銘なんてものは、古い所は「松屋肩衝」とか、「長谷川文琳」というように持つていた人の名前が付いている事が多いんです。何といつても楽しみなのは遠州の中興名物で、大抵名所の名前が付いている。名所の「布引きの滝」ならそれに似た景色が茶入にあつて、そういう風に歌の名所と物とをドッキングさせる事によって、日本の古典文学をお茶道具の世界に持ち込んだという功績が、あるような気がします。

## 唐物茶碗は舶来茶碗

さて、次に茶碗に移りますと、茶碗の場合は唐物と和物と大きく二つに別れます。私がそれぞれを一冊ずつの本にまとめようとした時に、林家先生からチェックが入りまして、それは唐物茶碗の中に朝鮮茶碗を入れては行けませんということでした。ところがそれは我々の常識の中では入ってたんです。遠州時代から唐物という言葉はもちろん中国という事ですけれども、道具に関しては舶来という意味と重なっている。他所から来たもの、ですから和物に対して唐物という扱いですから、当然の事ながら朝鮮も入れれば、さらには安南だとか宋胡録だとかいう物も唐物だとしておつたんです。ところが昨今では中国とも韓国とも国交が正常化しているの、韓国の物を中国の中へ入れるわけにはいかないという事なんです。で私も本のタイトルを『唐物茶碗と高麗茶碗』としました。まあこの方ははつきり解りますし、もともと利休の時代には、ちゃんと区別していたというのが会記を見ても解りますが、どうも明治時代に舶来といういう物が含まれてきた頃から、いつの間にか曖昧になったようです。

また、唐物という言葉は中国を曖昧にさす言葉であつて、唐時代を意味する物ではありません。



ませんし、高麗物というのも朝鮮半島を意味する言葉として、それぞれの国を代表するような時代の呼び名を使っているわけです。特に朝鮮で出来たお茶道具についてはほとんどは李朝の時代に造られた物ですので、高麗というのとは正確とは言えませんが、国交について紳経質な時代ですので、ラフで重宝な言葉として使っております。

中国の茶碗は天目茶碗と青磁、白磁、それから染付。明の終わりまでの全部、中国の何かの茶碗を転用したもので、抹茶とは関係ありません。それで明の終わり頃、天啓、崇禎の時代になると初めて日本から注文が行くようになる。茶碗の場合も天啓の古染付の時代の茶碗。崇禎の遠州時代の祥瑞の茶碗。こういう物は日本も中国も混ざって造っておった。

### 高麗茶碗のいろいろ

朝鮮の茶碗の場合も注文の始まる時代には綺麗に境があつて、織部の時代から注文が行くようになる。それまでの井戸茶碗だとか三嶋とかいうのは完全に朝鮮の食器なんです。或いはお供えの器。その中から茶碗に程よい寸法の物を取り入れて抹茶茶碗に使っておるわけです。

ところが織部の時代になると御所丸、金海、彫三嶋。それから遠州の時代になると伊羅保に井戸。このように完全に日本からの注文がどんどん行くわけです。そうすると不思議に向こうのオリジナルというのがなくなる。それまでの物は朝鮮のオリジナルの何かだった物が、その何かも無くなつてしまつて完全に注文だけになつてしまつた。それが高麗茶碗の内容ですね。

今日はたまたま、熊川茶碗を持って参りまして。熊川（こもがい）というのは室町の後半に貿易港だったところ。港の名前なんです。品物がとりあえず日本に着いた時の中継点であつたのですが、品物の最後の到着点ではうまく伝わらなかつたのか、茶碗の産地

の名前として誤解されてしまつた。まあ、とにかく熊川は港の名前がいつの間にか茶碗の名前になつたという事です。「こもがい」も常識的には絶対読めませんが、案外名前の起こりというものはええかげんというか、自動的、自然的に付いたものが多いんです。

斗、屋なども昔、魚屋の市原という家にあつた茶碗で、それが良かったんで斗、屋と付いた。他にも柿のへたの色に似てるから「柿の蒂」だとか、あんまり凝つて捻つた名前の分類は少ないんです。「蕎麦」なんていうのもざらざらの蕎麦のかすみという説と「井戸」によく似ているから井戸のそばとか両方の説があるんですが、そういう何でもない発想から付いたものが多いんです。

ほかにも、三嶋、刷毛目、粉引。これらは完全に日本で付いた名前ですけど、「三嶋」は伊豆半島の付け根にある三嶋大社の暦が非常に細かく書き込んであつて、それが茶碗の模様になつて三嶋となつた。後の二つは文字通り刷毛で塗つた感じ、或いは粉が吹いたような感じというので付いたものですが、実はこの三つは同じ窯なんです。ところが日本では三つに分類して楽しんでるわけです。朝鮮での名称は粉青沙器といつて、それが三嶋、粉引、刷毛目の総称なんです。事実、両方が出てるやつがある。例えば中が三嶋で外が粉引という有名な茶碗があります。『大正年鑑』にも出てまして、銘を『両国』というんです。それから三つが合わさつて三作三嶋というのがあります。

### 井戸茶碗のこと

とにかくそういう朝鮮の茶碗を日本からの注文が始まる以前は、向こうのオリジナルの中から一生懸命探してきて、そういうものの代表に井戸茶碗があります。

なぜ井戸茶碗が異常に評価されているかを端的にいいますと、濃茶茶碗としてこれほど機能的に適っているものが無い。例えばもし皆さんが『喜左衛門井戸』を拝見する機会

があるとして、たいいていのがね、フツと持ち上がると思います。見た目の重さ、予想した感じが違う。あの分厚い高台と茶碗の大きさからは想像できない軽さがある。なんで井戸茶碗が軽いかというと、土の質がね、非常に気泡の入つたザンギリした土なんです。だから、口当たりが柔らかい、手触りが柔らかい。熱の伝導が緩やかで、いわゆる手取りという事に非常に適っているわけです。それと井戸茶碗のありがたいのは枇杷色というあの色。あれが濃茶のお茶の色に非常に良く合ふんです。

それともう一つはカイラギというのがありまして、高台の回りにある白いぶつぷつがいっぱい出来ている。あれが井戸茶碗を何倍か魅力的にしているわけです、カイラギは景色としても面白いんですが、もともとは、ある種の鮫の皮の背中の白いざらざらというんです。その皮を刀の柄に巻く訳です。当時は最高の刀は、カイラギで巻くというのが一番の

装飾なんです。つまり滑りにくいし、引っかかりにくい、程よい粘りと肌触りを最高の状態で持つてゐるんですね。ですから武士の進物として蒔絵の箱に入れて、五色の糸で鮫の皮を飾つて差し上げると、それは何よりも尊いものだったそうです。これをもし、知っていれば忠臣蔵は起こらなかつたかもしれない。そういうものがこの茶碗の底に付いてゐる。武士の持つ茶碗はこれだという事で、それまでの天目茶碗なんかよりは井戸茶碗の方がはるかに評判が良かった。だからこそ織田信長は柴田勝家に『柴田井戸』を授けた。そして次々と大名はいよいよ茶碗を手に入れて自慢し合つたわけです。名物といえば『喜左衛門井戸』のほかに『筒井筒』『唐井戸』『有楽井戸』などがあります。

こういう高麗茶碗を鑑賞する時には景色だけでなく何か逸話や物語があるものですが、そんなことを探るのも大変興味深い事です。露地に沿つて配される、茶事・茶会に必要な空間について前回触れたが、茶邸の入り口に設けてある門を露地門といい、茅葺・柿板葺・杉皮葺・小瓦葺など様々である。中門や中潜りより格調の高いものとするのが普通であるが、屋根が無く、木戸型式の場合を特に露地戸と称する。

客が連客を待ち合わせたり、席入りの準備をする為の空間を、特に寄付（袴付）といい、住居の一部をあてることもあるが、外露地内に独立の建物として設けられる場合が多い。これを特に、腰掛待合といい、通常内部には床の間や丸炬などを設け、携帯品を納める棚などが付属されている。また近くに雪隠を付設することが多い。

## 美藻庵点描

### 十四、路地・露地（二）





三年前の四月のことである。三国志に出てくる劉備、関羽、張飛の三人の「桃園の契り」ではないが、「桜園の契り」がなされたのは、詫間町の紫雲出山の山頂、満開の夜桜の下である。穏やかな瀬戸内海、芳しい潮風と月明かりに照らし出された桜の花々、そこはえもいわれぬ別天地。これほど素晴らしい地域でありながら、どうして日本や四国、香川の観光は元気がないのか。観光立国、観光立県香川は夢であってほならない。熱い議論が交わされ、ロマンが語られたのである。

当時、松岡勝哉・JTB高松支店長、竹内守善・香川県観光振興課職員、梅原利之・JR四国社長の三人であった。それぞれの名前の頭文字をとって「松竹梅観光立国プロジェクト」のめめたいスタートであり、ドラマ「三匹の侍」の始まりである。

梅原社長は行政や経済界を巻き込んで観光の意義を高らかに唱える。松岡氏は旅行事業者の経験を生かし、観光戦略の提言や実践の提案を次々と熱く語る。竹内氏は在職十五年のベテラン観光行政マンで、瀬戸内海活性化プランなど観光の戦略的実践のプランをまとめ、瀬戸内海塾を始め各地域のワークショッブやNPOのメンバーなどにプランの実現に向け積極的に働きかけていく。クルージングネットワーク、女木島の桜の植栽、屋島の山上イベント、栗島のカナディアンキャンプ、フィルムコミッション、アートツーリズムなど試行錯誤を繰り返しつつも着実に新しい観光が芽吹きつつある。

今回、竹内氏に取材させていただいた観光の話は大まかには次のとおりである。

●日本で観光立国を最初に言葉に表したのは昭和二年、松下電器の故松下幸之助社長であった。

また、昭和三十七年に香川県議会が「観光県」宣言に関する決議を行っている。その内容は「広く内外観光客誘致の飛躍的増大を期するため、一大県民運動を展開せんとす。」という高邁な決議であった。

●ところが、この三十年間、日本の観光の取り組みは世界の水準から随分と遅れてきている。例えば

## 秘園の誓い 松竹梅・三匹の侍

女三人寄れば「かしまし」と言われる。かしましとは「囂し」とも「姦し」とも書き、「騒がしい」とか「かまびすしい」様である。周りに聲を聞くこともあるが、お喋りで楽しく、明るくて元気な様である。男女雇用機会均等法に定めているわけではないが、男も三人寄れば「やかましく」なる権利がある。つつい大きな声で、年甲斐もなく夢を語り、明日を語る。これも元気であって、いたってよろしい。

が押し寄せているが、フランス政府観光局の予算はおよそ六十億円。香港四十四億円、韓国二十億円、カナダでは約百億円の予算が組まれているのに比べ、日本は外国人観光客誘致のための国際観光振興会の総予算がたったの四億四千万円。これじゃ、日本の観光は開かない。

●また、一年間で日本人が海外で使った金は三億五億ドル。それに比べ外国人が日本で使った金は三四億ドル。日本の国際旅行収支は約三・五兆円の赤字になる。この金額は、たった一年で本四架橋の三ルートをもまとめて購入できるほどの金額だから大変である。それほどに、観光はパワフルな産業で、二一世紀は観光、信仰、健康がキーワードだと言われていることもうなずける。

●観光は総合産業といわれ、旅行業、宿泊業、輸送業、飲食業、土産品業等極めて裾野が広く、その経済効果は極めて大きい。平成十四年の観光に関する直接消費によりもたらされる生産効果は約二十一兆円。その雇用効果は約一八一万人。二次的な経済波及効果をも含めれば、生産効果は約四九兆円。雇用効果は約三九三万人。観光はまさにリーディング産業で、地域の活性化に大きな影響を及ぼすものである。

●一昨年、香川県は「観光香川二十一戦略会議」(座長・猪俣範子氏)を開催した。委員は全国の観光戦略に数多く携わってきた猪俣範子氏と元国土庁長官官房審議官の吉村彰氏、国立民族学博物館教授の石森秀三氏、JTB高松支店長であった松岡勝哉氏の四名であった。そして、昨年の九月十八日に、「香川ツーリズム立県宣言」として中間報告書が真鍋香川知事に提出され、現在、「住んでよく、訪れてよい香川」を目指したまちづくり型観光が進められている。

●香川県に遅れること一年、国も重い腰をあげて、やっと観光立国懇談会を立ち上げ、今年四月二十四日、「観光立国懇談会報告書」を小泉総理に提出、タイトルは香川県を見習ったのか「住んでよし、訪れてよしの国づくり」になった。小泉総理はこのタイトルが気に入ったらしくいろんなところで使っているし、「これからの観光は日本を興す基幹産業だ」という認識を持って、政府を挙

## 財団法人行事予定

(十二月～三月上旬)

### ◆一月 晴友会新年会

先月よりご案内いたしました晴友会の懇親をかねました新年会は、お申込の方々と相談させていただき新年らしいお菓子は？点心は？と準備中です。まだお申込でない方もご都合よろしければ十二月十五日迄にお申込下さいませ。

#### 記

とき 一月六日(火)午前十時三十分

処 当財団

席 濃茶席・薄茶席

点心得・ゲーム・福引等々

参加費 三千五百円

### ◆二月月釜「新春をこほぐ」

新しい年を迎え皆様それぞれの点初をお楽しみのことと存じ上げますが当財団では、表千家流土井宗伸先生に平成十六年に入り初めての釜を懸けていただくことになりました。茶の湯の家に育ち長年にわたり千家の家風を修め研鑽を重ねてこられた先生ご夫婦のお席を今から楽しみにいたしております。

少し早いですが年末とお正月をはさみますので十二月からお申込を付けさせていただきます。お誘い合わせてお申込をお待ちいたしております。

#### 記

とき 二月一日(日)

処 茶室 美藻庵・晴松亭

席 濃茶席・薄茶席・酒飯席



# Oh! 茶Gai!

その18



今回は大学で茶道部の副部長をしている藤原亜佳美さんです。お茶を習い始めたのは大学に入ってからですが、実家では幼い頃から抹茶は飲んでいたそうです。中学から高校にかけてはバスケットに弓道とスポーツに夢中だった彼女が茶道部に入部したのは新入生歓迎会で楽しい先輩方に出会ったのがきっかけ。お茶を習って良かったことは「普通の学生生活では知り合えないような方々とお会いできること」と言うようにお茶との出逢いの最初からいい人達と出会えたようです。

藤原さんのお茶に対する考え方は「自分が楽しくないとお客様も楽しくない。お客様に楽しんで頂くのが一番」ということだそうです。今は十一月末に開く毎年恒例のお茶会に向かって道具決めや人員配置に全力投球だそうです。自分では「優柔不断なO型」と言う彼女、しっかり副部長していました。

## 喫茶居(十八)

### 「紺の南国で」

木田郡三木町出身の染色家・鎌倉芳太郎(人間国宝)が、現地では、単なる琉球紅型の第一人者というだけでなく、「沖縄文化の恩人」と慕われていることを知り、その大きな表現の源を探るべく、郷土人の足跡を沖縄に訪ねました。

大正期、美術教師として沖縄に赴任して行った芳太郎は、琉球文化の研究、収集、記録に情熱を注ぎました。残された膨大なガラス乾板写真、几帳面な記録ノート…。沖縄県立芸術大学に保存された資料には、王朝文化だけでなく、そこに暮らす人々の生活全体に注がれた彼の温かな目を感じられました。沖縄観光に欠かせない首里城は、彼の情熱で大正時代に崩壊の危機から救われ、沖縄戦で壊滅した城の再建も彼の資料なくしては成し得なかったと言えます。その城の真下にあるキャンパスで知った芳太郎に敬意を表して、沖縄の「さんぴん茶」で乾杯しました。



「取り組んでいきたい」とも語っている。今年、日本への外国人観光客数を増やそうと「ビジット・ジャパン・キャンペーン」として、始めて二十億円の大型の予算が組まれたのである。

●観光は物見遊山なものから体験参加型のツーリズムに変化し、ツーリズムから更に進化あるいは深化していく。ニューツーリズムの時代が着実にきている。ニューツーリズムがどんなものなのかは、その推進主体である地域住民が自ら考え、自ら行うことによってそれぞれ違ってくる。確かなことは、住んでいる人が気持ちよく感じられる地域こそ、誰もが訪れてみたい地域であり、その結果として観光地が生まれるということではないだろうか。そのため、観光は総合産業であり、総合行政でなければならぬ。「住んでよし、訪れてよしのまちづくり」が、今、ふるさと香川の地域で望まれている。

香川県では今年を観光振興元年とし、四月、新たに観光交流局を設置した。観光振興、賑わい創出、物産振興を軸に観光交流事業の積極的な展開を図ることとしている。香川県観光協会も会長には梅原・JR四国社長、専務には松岡・元JT B高松支店長がなつて、十分な戦闘体制を構築することになった。また、梅原社長は昨年から日本観光協会四国支部長や四国観光立県推進協議会長にもなつている。一方、竹内氏は今年の三月末に、三十五年間勤めた香川県庁を退職、観光振興・地域振興の経験を生かし、現在、四国新聞客員論説委員や香川県地域振興アドバイザーとして観光やまちづくりの仕掛人として辣腕をふるっている。

観光からツーリズムへ、そしてさらにニューツーリズムの旗手として、その魁(さきがけ)を勤め、観光維新を目指そうと話し合った三人の桜園の誓い。日本の観光、香川の観光にとって、この松竹梅の三匹の侍には目が離せられない。

#### 入席時間

- 第一席 A・B 九時
- 第二席 A・B 十時四十分
- 第三席 A・B 十一時三十分
- 第四席 A・B 十三時十分
- 参加費 一万円
- 席人数 一席十五名(全八席)

#### 好評実施中 月に一度の喫茶室

#### 晴松亭でお茶しませんか!

お茶の作法を知らなくても大丈夫。本格的な茶室をぜひ一度体験して下さい。毎回各流派の先生にご協力頂き、茶席の雰囲気や軽に味わって頂くという企画です。点心ランチもご用意しております。また、讃岐の茶陶シリーズとして茶道具を創る陶芸家の作品も、展示紹介しています。

お誘い合わせの上ぜひご来館下さい。

- 平成十五年 十二月十六日(火)
- 志度焼 門家窯 石原宝
- 平成十六年 一月二十日(火)
- 理平焼 十四代 紀太理平
- 平成十六年 二月十七日(火)
- 旺祥寺焼 槇啓州

とき 毎月第三火曜日

午前十時～午後四時まで

喫茶料 千円(晴友会会員は割引あり)

点心ランチ 千円(要予約)

喫茶室以外の行事は予約制(時間指定)となります。お申し込み、お問合わせは、当財団事務局まで(水曜日休館)

高松市番町二丁目一十二

☎(087)8266・3355



# 茶 華 道 ガ イ ド

## 安部流四国支部 ☎(0877)86-3442

- 12/21 チャリティ茶会  
席主：安部流四国支部  
丸亀市保健福祉センター  
1000円 10:00～15:00
- 1/11 伝統工芸展協賛茶会  
席主：安部流四国支部  
香川県文化会館和室  
500円 9:00～15:30

## 表千家同門会香川県支部 ☎(087)874-0458

- 1/25 表千家流春季茶会 席主：宮竹宗洋  
丸亀生涯学習センター 500円 9:30～16:00
- 2/8 表千家流四季茶会 席主：坪井宗洋  
本覚寺別院 500円 9:00～15:00

## 香川いけばな連盟 ☎(087)821-4347

- 1/20～25 第23回新春香川いけばな展  
席主：一生流、嵯峨御流、朝流、池坊  
三越新館5階催物会場  
一般500円 前売400円  
10:00～19:00  
1/22、1/25は10:00～17:00

## 琴平月釜茶道会 ☎(0877)58-9551

- 12/6・7 琴平町歳末助け合いチャリティ茶会  
席主：武者小路千家官休庵  
(竹井清子、山科タミ子、田中美代子)  
総合福祉センター  
200円 10:00～15:00

## 茶道裏千家淡交会香川支部 ☎(0877)46-1899

- 1/18 丸亀分会月釜 席主：上川宗綱  
丸亀生涯学習センター  
500円 9:30～15:00
- 1/25 坂出分会月釜 席主：馬場宗郁  
坂出勤労福祉センター  
500円 9:30～14:00
- 2/1 多度津分会月釜 席主：谷川宗顕  
多度津共同福祉施設  
500円 13:00～15:00
- 2/15 善琴分会月釜 席主：山下宗澄  
善通寺樟蔭軒  
500円 10:00～14:00

## 茶道裏千家淡交会高松支部 ☎(087)865-7150

- 2/1 淡交会 月釜 席主：宮崎宗静  
天神会館 500円  
当日600円 9:00～16:00

## 武者小路千家香川官休会 ☎(087)851-2258

- 12/7 香川官休会月釜 席主：高橋照美  
本覚寺 500円 9:00～15:00
- 1/11 香川官休会月釜 席主：佐藤ハル子  
本覚寺 500円 9:00～15:00
- 2/1 香川官休会月釜  
席主：香川官休会男子部  
本覚寺 500円 9:00～15:00
- 1/12 第50回日本伝統工芸展高松展協賛茶会  
席主：竹井清子  
香川県文化会館 500円 9:00～15:30

## 武者小路千家官休庵 佐々木博子社中 ☎(087)821-8777

- 1/18 第15回初釜 席主：佐々木 茂  
800円 9:00～16:00
- 3/7 第13回学生釜卒業記念茶会  
部長：山岡 弘二  
600円 9:00～16:00  
両茶会とも中條文化振興財団茶室

## 高松商工会議所 女性会 ☎(087)825-3511

- 3/3 第4回おひな祭り茶会  
席主：高松商工会議所女性会  
薄茶・点心席  
午前(9:00)券・午後券 各3500円

上記予定は変更する場合があります。

## 生誕100周年記念

### 猪熊弦一郎回顧展

A Retrospective Exhibition of Genichiro Inokuma

2003/11月23日～2004/2月8日

担当学芸員によるギャラリートーク

日時：2003年12月7・21日

2004年1月4・11・18・25日

2月1・8日 午後2時～

場所：美術館1階受付

参加無料、ただし観覧料は必要

ワークショップ「荻先生といっしょに描こう」

日時：2004年1月24日(土)午前10時～12時

講師：荻太郎(画家)

対象：小・中学生(定員20名)

参加料：無料 申込め切：1月9日(金)

申込方法：はがきにワークショップ名、名前、学年、〒住所、電話番号を書いて美術館ワークショップ係まで。

e-mail(fvbf3270@infoweb.ne.jp)でも可。

## 2003.12.14.Sun Guen's Birthday!

※Guen(ゲン)とは猪熊弦一郎の愛称であり、サインとして作品にも記されています。

猪熊弦一郎101回目の誕生日を記念し、観覧料を終日無料とする他、美術館館内各所でイベントを実施し入館者の皆様とともに猪熊弦一郎の誕生日を祝します。

### オープニング

丸亀市少年少女合唱団による「Happy Birthday」他数曲の合唱でお誕生日の幕が開きます。

時間：10時～

場所：美術館1階 ゲートプラザ

### ギャラリートーク

学芸員による「生誕100周年記念 猪熊弦一郎回顧展」ギャラリートーク(作品解説)を終日行います。

時間：10時30分～17時

30分毎にスタート 計14回

出発場所：美術館1階受付にお集まりください。

ミュージアムホール

ビデオ上映「猪熊弦一郎生誕100周年記念少年のようにー猪熊弦一郎の世界ー」

上映開始時間：11時12時、13時、14時、

15時、16時、17時

計7回(上映時間約45分)

場所：美術館2階 ミュージアムホール

ワークショップ：対話彫刻をつくろう

猪熊弦一郎がつくったオブジェ《対話彫刻》のように、身近なもので楽しい立体作品をつくろう!

時間：10時30分～18時

場所：美術館2階 造形スタジオ

対象：子どもから一般

材料：針金、包み紙、ひもなど

(美術館が用意しています)

参加方法：直接、造形スタジオに集合

参加料：無料

その他カフェレストMIMOCAやミュージアムショップなどでも、プレゼントやタイムサービスの企画が盛たくさん。ぜひお越し下さい。

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

〒763-0022 香川県丸亀市浜町80-1

(JR丸亀駅前)

TEL (0877) 24-7755

URL: <http://web.infoweb.ne.jp/MIMOCA/>

i-mode: <http://web.infoweb.ne.jp/MIMOCA/i/>

## 中條文化振興財団

### 茶湯の講座ご案内

#### ●京都 三友居の茶懷石講座(第4期)

2年を一期とした本講座は来年度から第四期目がスタートします。季節を追いつながり、素材の選び方から味付けのポイントまで具体的に解説して下さい。懐石料理を召し上がって頂きながらの山本先生との会話も大変好評です。

講師 京都・三友居 山本 勝 先生

日時 平成16年2月3日(火)

以後偶数月の第一火曜日

午前の部 11:00/午後の部 15:00

講座は約3時間で、定員は各15名です。

料金 20,000円

#### ●和菓子講座(第6期)

やってみると意外と簡単。和菓子を自分で作ってみませんか。最後はお抹茶を頂きながら、楽しい反省会もあります。

講師 高橋 初乃 先生

日時 毎月第2金曜日 午前10時より

料金 3,000円

#### ●南方録を読み解く

利休の秘伝書として伝わる南方録を教科書にわかりやすく解説して頂きます。

講師 伏見 宗章 先生(恕庵文庫)

日時 毎月第4火曜日 午後1時30分より

料金 2,000円(晴友会会員は1,500円)

■お申し込みお問合せは財団事務局まで  
TEL087-826-3355



# イベントガイド

## 香川県文化会館 ☎(087) 831-1806

< 1・2・3 階展示室 >

1/5~18 第50回日本伝統工芸展 9:00~●

< 1・2 階展示室 >

2/7~29 新しい美術の誕生 ~戦後の美術~  
9:00~●

< 6 階常設展示室 >

12/13~1/18 漆の系譜  
~象谷から現代の人間国宝まで~  
9:00~●  
2/7~3/21 カンディンスキー「響き」  
~1枚の絵画から~ 9:00~●

## 香川県民ホール ☎(087)823-3131

< グランドホール >

12/9 劇団四季ミュージカル  
「アンデルセン」 18:30~●  
12/11 キーロフ・バレエ  
「白鳥の湖」 18:30~●  
12/14 STARDUST REVUEコンサート  
17:30~●  
12/18 高松西ライオンズクラブチャリティ  
コンサート 14:00~■  
12/20 上原彩子ピアノリサイタル  
14:00~●  
12/28 劇団ブチミュージカル公演  
ミュージカル「レストラーレ」●  
18:00~  
1/17 ボルノグラフィティコンサート  
18:00~●  
1/18 吉本新喜劇&バラエティショー  
高松講演 17:00~●  
1/27 NHK歌謡コンサート 20:00~★  
1/29 ディズニー・オン・クラシック  
19:00~●

## 菊池寛記念館 ☎(087) 861-4502

< サンクリスタル高松 3 階第 1 集会室 >

12/6 菊池寛文芸講座  
—新古今集歌の表現— 13:30~■  
1/10 菊池寛文芸講座  
—「成瀬正一日記」は語る②—  
13:30~■  
2/7 菊池寛文芸講座  
—菊池寛の遺業— 13:30~■

< サンクリスタル高松 4 階特別展示室 >

~1/25 第12回文学展  
「松本清張と菊池寛」 9:00~●

< サンクリスタル高松 3 階視聴覚ホール >

12/14 村山篤子誕生100年記念朗読会  
13:30~■

## 高松市歴史資料館 ☎(087) 861-4520

< サンクリスタル高松 4 階特別展示室 >

1/31~3/21 第35回特別展  
「歴史と現代の対話」展 (仮称)  
伝統的建築物を生かすなど伝統  
的文化と現代の生活を新しい観  
点で結びつけるなど様々な試み  
を紹介します 9:00~●

## 高松市美術館 (休館日:月曜) ☎(087)823-1711

< 2 階展示室 >

~12/7 舟越桂展森から来たささやき ●  
2/27~3/28 開館15周年記念 玉楮象谷展 ●  
< 1 階展示室 >  
~1/12 第4期常設展 ●  
1/17~3/28 第5期常設展 ●

9:30~19:00、  
土日祝は9:30~17:00

## 玉藻公園管理事務所 ☎(087)851-1521

12/5~7 第4回萌雅展 (盆栽展示会)  
披雲閣

## ギャラリーEN ☎(087)821-6341

~12/2 赤木明登ぬりもの展  
10:00~18:00 ■  
1/21~27 おひな祭創作人形展  
(徳田多紀子作) 10:00~20:00 ■

## 四季ギャラリー ☎(087)822-9010

12/1~27 井川淳「モロッコ」写真展 7:30~■  
三越高松店 ☎(087)825-0828

< 本館 5 階 美術画廊 >

~12/1 墨の世界樋笠幸三展 10:00~  
12/2~8 第41回現代工芸四国会展  
10:00~  
12/9~15 小磯良平大賞受賞記念  
四宮金一絵画展 10:00~  
12/16~22 新春に寿ぐ迎春用掛軸展  
10:00~  
12/23~29 年末恒例 歳末版画バザール  
10:00~  
12/30~1/12 新年を彩る新春絵画展 10:00~

## ヨンドンフラザ高松 ☎(087)851-3863

< ギャラリー >

12/2~7 グループ美有水彩画展  
「会員8名による水彩画約20点の展示」  
12/16~21 まんでがん讃岐の土作陶展  
「会員約20名による陶器約150点  
の展示」  
12/23~28 阿部邦雄教室はがき絵スケッチ展  
「会員11名によるはがき絵スケッ  
チ約120点の展示」

## ストーンミュージアム ☎(087)871-2200

~12/7 三枝惣太郎、優二人展  
惣太郎 (干支シリーズ、絵画)  
優 (絵画、彫刻、ガラスシリーズ)  
9:00~●

## 牟礼町公民館 ☎(087)845-4111

12/6~18 「師走展」袋物と七宝焼  
牟礼町石の民俗資料館 9:00~■  
2/21~3/4 「如月展」水墨画  
牟礼町石の民俗資料館 9:00~■  
12/21 「こーりゃんせ2003」  
水のすべり台や彫刻  
牟礼町石匠の里公園 9:00~■

## さぬき市教育委員会事務局生涯学習課 ☎(087)894-1000

12/21 アンサンブル・ムジカ・ボヘミカ演奏会  
さぬき市志度音楽ホール 14:00~●  
1/18 ふるさとリサイタルシリーズxviii  
チェコ弦楽三重奏団演奏会  
~モーツァルト室内楽の醍醐味~  
さぬき市志度音楽ホール 14:00~●

## 東かがわ市とらまる公園事務所 ☎(0879)25-0400

1/2 お正月だよ人形劇  
11:00~、12:30~、14:00~ ●  
2/25~27 ガイ氏即興人形劇場 10:30~●  
2/28~29 ガイ氏即興人形劇場  
10:30~、13:30~●

## 綾歌町教育委員会 ☎(0877)86-5963

12/23 第8回瀬戸フィルハーモニー交響  
楽団定期演奏会クリスマスコンサート  
総合会館アイレックス 14:00~●

## 総合会館アイレックス ☎(0877)86-6800

12/23 第8回瀬戸フィルハーモニー交響  
楽団定期演奏会クリスマスコンサート  
14:00~●  
1/25 劇団四季公演  
「嵐の中の子どもたち」 17:00~●

## 坂出市社会教育課 ☎(0877)44-5026

1月中旬 県指定無形民俗文化財榎石ももて祭公開  
榎石王子神社 9:00~予定■

## 丸亀市教育委員会文化課 ☎(0877)24-8822

1/25 第2回まるがめクラシックギャラリーコンサート  
丸亀市民会館大ホール 14:00~●

## 丸亀市立資料館 ☎(0877)22-5366

~12/14 縁起菓子祝い菓子 9:30~■

## 丸亀市民会館 ☎(0877)23-4141

12/1~3 小中学生鑑賞教室  
「邦楽アンサンブル」 10:00~13:30~●

## 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 ☎(0877)24-7755

~2/8 生誕100周年記念  
猪熊弦一郎回顧展 10:00~●  
12/14 Guen's Birthday!

## あーとらんど ギャラリー ☎(0877)24-0927

< 1F 絵画ギャラリー >  
~12/21 2003様々な邂逅展 ■  
1/10~2/1 周豪展~ドローイングと版画~ ■  
< 2F 工芸ギャラリー >  
12/13~27 酒にちなんだ器展  
~暮らしのかたち—工芸の今 I— ■  
11:00~20:00、土・日曜11:00~18:00、  
水曜・第2・4火曜休

## 仲南町教育委員会 ☎(0877)77-2882

2/21~22 「森のコンサート」オーケストラによ  
る演奏 仲南町町民文化ホール●

## 観音寺市教育委員会生涯学習課 ☎(0875)23-3943

12/20 第2回観音寺国際音楽フェスティバル  
市民会館 17:30~■



# あなたが創る郷土の文化

10月5日、県歴史博物館の地下講堂に於いて実施された、財団設立10周年の記念講演会に先立ち、第11回財団賞の授賞式が行われた。当日は会場いっぱいのお客様と共に晴れやかに授賞式を行うことが出来、受賞の二人が輝いて見えた。讃岐の地にも、隠れた文化の担い手が、まだまだ数多く居られる事を喜びつつ、また来年の受賞者を楽しみにしたい。

## 第11回 財団賞受賞者の紹介

●木村 照一氏

推薦・さぬき市教育長

長年に渡るへんろ資料の収集と研究を、単なる郷土の歴史研究に終わらせることなく、「へんろ資料展示室・おへんろ交流サロン」として平成11年、さぬき市前山にて公開。その運営にも中心となって活動が続けておられる。

●伏見 章(宗章)氏

推薦・牟礼町教育委員会教育長

茶の湯の普及の為に恕庵文庫を設立。所持する茶道具・茶室・自宅等全ての私財を牟礼町に寄贈し、同町学習センターとして一般に開放。流派を越えた勉強の場として茶の湯の普及に貢献されている。

## 第10回 助成金交付団体の紹介

助成の対象と成りました事業は、すでに実施され助成金も交付されておりますので、ここでご紹介させて頂きます。

●野の花グループ 代表 竹田豊靖氏

フランス・トゥール市と高松市

姉妹都市十五周年参加事業  
花のリサイクル”花狩2003“

「花と音楽のパフォーマンス」



●茶の湯をさらに楽しむ会

会長 大内康雄氏

第二回茶の湯の文化講座

「茶席の中の道具の見方」小田榮一先生

七月二十七日 於 財団茶室晴松亭

●ふるさと

なかの出版委員会

代表 工藤 清氏

八十周年記念誌「ふるさと なかの」の出版

平成一五年 四月一日発行

## 平成十六年度助成金 ただ今応募受付中

財団の助成金は、香川県の芸術文化の振興発展に役立つと認められ、かつ経済的に助成を必要としている団体を対象にしています。特に未分野の文化についても検討の対象としていますので、実績のない新しい団体でも応募が可能です。内容によっては、五年間連続して助成を受けることもできますので、どしどし応募下さい。

また、以前惜しくも選出されなかった団体の方はぜひとも再チャレンジをお願いします。

### ●事業の実施時期

平成十六年四月一日～

同十七年三月末日まで

### ●応募の方法

財団所定の助成金交付申請書により提出して下さい。

※切は、平成十六年一月末日。

なお、二月下旬頃に財団の選考審議委員会に於いて各々プレゼンテーションして頂きます。

### ●助成対象について

茶華道・芸能・音楽・美術・工芸・その他。いずれかのジャンルに該当するもの。

### ●助成金 三団体

(一件三十万円まで)

## 編集後記

「皆さん、形を覚えようとしなくていいね。見て、感じとってくださいね。」先日、催された当財団の設立十周年記念講演会で二つの茶碗を比べてお話を聞いた時の楽吉左衛門氏の言葉です。その時に、よく似た助言を別のお二人から聞いたことを思い出しました。お一人は美術工芸関係の学芸員の方、もうお一人は演奏家の方でした。「著名な方の作品だからとか入選作品だから、すべてがいい作品だと決めて見ないで、ここはいいと思うけれどここはちょっと...とか、ここは好きだがここは嫌いだとか自分の感性でもって見るのが大切ですよ」「作曲者はどこの国の人なのか、何のために作られた曲なのか、時代背景や当時の流行はどうなのかなどを自分の頭の中で、思い感じて弾かないと曲にならないですね。音符として実際に書かれているけれど、どう音にしていくなかという点でね」以上がそれぞれの言葉でした。

「感じる」というニュアンスは微妙に違っているけれども、「自分の感性を持つ」という点では一致していると思うのです。作品を見て、また演奏を聞いてその人たちの人間性や感性までも解ることができれば、とても素晴らしいことだと思いませんか？

この文化通心もたくさんさんのイベントガイドやギャラリーの紹介、行事予定など掲載しています。ぜひお出掛けいただき、それぞれになにかを感じ取っていただければ幸いです。

「声・情報お寄せください」

〒760 0017 高松市番町二丁目一十二

(財)中條文化振興財団編集部

TEL(087) 8266・33355

FAX(087) 8266・2212